

因島高校 集団宿泊研修を実施

5/10 ~11

1年生は、福山市金江町の県立福山自然の家で一泊二日の集団宿泊研修を行いました。クラスの一人としての自覚・一つの目的に向かって協力していく中で得られる達成感など何かを掴んだようです。生徒の感想を聞きました。

三つ目はマナーです。部屋・トイレ・お風呂の利用の仕方、掃除など最低限のことはならないことを学びました。今回学んだことを忘れず、学校生活や家庭で生かしていきたいと思えます。

今回の研修では集団行動の難しさを学びました。中学校までは5〜9人のクラスメイトしかいなくて集団行動は多くても30人ぐらいの人数での経験でした。高校では百人以上の人たちとの団体行動だったのでとてもとまどいました。しかし多くの人たちとの交流ができて有意義でした。

今回の研修は、親睦を深めること・時間や規律を守ることに加え、自主的に行動することが大きなテーマでした。様々な場面、役割分担を越えて働いている姿や声を掛け合い頑張っている姿が見られ、非常に頼もしく思われました。

・集団行動の大切さを学びました。好き勝手に行動することをまよませんから、一人一人が意識して行動することは



宮地 茂氏

福山大学名誉総長 宮地茂氏逝去

因島市名誉市民

5月19日、福山大学創設者で、福山大学名誉総長の宮地茂氏が、なくなりました。91歳。宮地茂氏は、因島の出身で、文部省を退官後、郷里の因島に近い福山に大学を建設され、因島をこよなく愛しておられ、因島の若者にぜひ福山大学で学んでほしいと、力説されていました。

「因島高校を支援する会」では、平成13年3月と、平成16年2月の2回、福山大学を訪問し、宮地名譽総長と懇談し、大学の推薦入学枠のお願いもおこなわれました。

全国高校体操選抜大会

剛君 優勝
田頭 跳馬
個人別総合 5位

3月24日(木)〜25日(金)三重県伊勢市で第21回全国高等学校体操競技選抜大会が行われ、本校から田頭剛君が出場しました。

田頭君は、昨年の全国高校総体(体操競技)で上位入賞し、今回の全国高校体操選抜大会の出場権を獲得しました。この大会では、ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒の5種目で安定した演技をしましたが、鉄棒種目でまさかの



跳馬



鉄棒

落下をしました。この結果、3位とは0.900点差で、惜しくも個人総合5位入賞にとどまりました。

なお、跳馬では、2位に0.25点差をつける9.350点を獲得し、種目別優勝を果たしました。

今夏(8月7日(日)〜9日(火))千葉市で行われる平成17年度全国高等学校総合体育大会での活躍が期待されています。

宮地茂総長のことばを振りかえってみました。

貧しかった子ども時代

小さいころは、家が貧しかったので、麦とイモを食べていました。母親の「コメの食べられる人間になれ。」という励ましを胸にして努力しました。貧しいことは、体験しないとわからない。母は、貧乏をかけてすまない。といつも話していた。しかし、金持ちになれとは、言わなかった。

親孝行について

親孝行とは、親の言うことをよくきくこと。病気をしない。親孝行の最たる物は、親に心配をかけないということ。親と漁にでて、学校を

休むものも多くいましたが、当時は親の手伝いをするのが、親孝行だと言われた時代でした。

なぜ大学をつくったか

当時、大学紛争が激しく、東大の安田講堂に学生がたてこもり、全共闘が騒いでいた。大学は、これでいいのかと疑問を抱き、理想とする大学を建設しよう、親が本当に子を託せるような大学をつくらねばならない。と感じました。

福山を選んだ理由

郷里の因島に大学をつくり、因島の子らにすばらしい大学生活を味わわせてやりたいと考えました。ただし、因島では、学生募集に無理があると思ひ、近いところということで、因島や、備後地区の子どもたちのことも考えて、福山に決めました。

第17回 京都・伯方・瀬戸田・因島 子ども太鼓交流会

5月11日(水)因島市民会館大ホールにおいて、京都市立醒泉小学校6年生、喜多浦八幡太鼓(伯方町)、島鼓美(瀬戸田町)、西浦子ども水軍太鼓、土生中学校とらひ・やる、の5団体が参加し、第17回子ども太鼓交流会が開催されました。

太鼓交流会は、18年前醒泉小学校の先生が、テレビで因島村上水軍陣太鼓を見たのがきっかけとなり、それ以来、修学旅行の地として因島を選び始めたものです。途中1年阪神大震災により開催できなかった年もありましたが、関係者の皆様の努力や、応援して下さいの皆様のおかげをもちまして18年もの交流が続いています。

土生中学校では、総合的な学習の時間で水軍太鼓に取り組んでいます。今回が初めての参加で、緊張が見られましたが、徐々に緊張もほぐれ皆が楽しそうに演奏していました。

2曲演奏しましたが、その中で天狗太鼓は、天狗役の生徒がこの舞台を最後に引退するよう、天狗役の生徒と、天狗を支える打ち手の強い絆で結ばれた、熱い思いのこもった演奏でした。

島鼓美 しまなみ海道沿線の太鼓グループが取り組んでいる、「海の豊饒」を演奏しました。日頃の練習の成果が十分発揮された素晴らしい演奏でした。

西浦子ども水軍太鼓 第1回からずっと参加して小学1年生から中学3年生までの児童生徒が一緒に、活き活きと元気よく、躍動感あふれる演奏でした。

先達から代々受け継いでいる「ぶちあわせ太鼓」を演奏しました。緊張感と気合いの入った演奏に、会場が息をのみました。インタビュアーでは、「いっぱい練習した成果を出せた」「緊張せず演奏することができた」等の達成感満ちあふれる感想を聞くことができました。

今年最後の皆で跳楽舞を踊り、因島の踊りで気持ちを一つにし喜び合えるようにと、醒泉小学校に因島村上水軍陣太鼓のメンバーが、ゲストティーチャーとして指導にきました。その成果もあり、皆が笑顔で一緒に楽しく跳楽舞を踊ることが出来ました。これからも、一生懸命することや共に感動しあうことの大切さを、子どもたちに自分を感じてもらうために、この子ども太鼓交流会が続くことを願っています。

クラブ活動

パドミントン部

4月23日(土)、三原高校で、地区総体。2回戦の尾道北高校戦は3対1で勝ち、準決勝の尾道高校戦では、第1ダブルス宮地成美・村上さくら組、第2ダブルス三浦杏美・村上加純組、第1シングルス五郎畑君衣が尾道高校を圧倒し3対0で決勝へ進出。決勝戦は、三原高校の圧倒的な力の前に涙をのみました。県総体(学校対抗戦)では、2回戦突破ができるようこれからも頑張りたいと思います。

卓球部

4月23日(土)、尾三地区予選会(個人戦)では、ダブルス上村祐介・岡野裕平がベスト8、シングルス上村祐介がベスト16、山本優花、山口詩織がベスト16に入り、県大会出場を決めました。

団体戦では、男子1回戦御調高校に惜しくも敗れましたが、9月11日決定戦で、久井高校に3-2、豊田高校に3-2で順調に勝ち、9位で県大会出場を決めました。

女子1回戦は、大崎高校に2-3で惜しくも敗れ、5-8位決定戦で尾道商業3-1、三原東高校3-1に勝ち、5位で県大会出場を決めました。

ソフトテニス部(女子)

地区総体結果団体戦
2回戦 因島3-0三原
準決勝 因島2-0尾道北
決勝 因島0-2尾道商
★第2位で県総体出場権獲得

サッカー部

地区総体結果
予選リーグCグループ
第1節 因島2-1忠海
第2節 因島6-0尾道東
グループ1位で準決勝へ
準決勝
因島0-1尾道
●県総体出場決定戦
(3位決定戦)
因島4-2三原東
★県総体一回戦は6月4日vs廿日市高校

女子バレー部

地区総体結果
1回戦 因島0-2尾道北
敗者戦 因島2-0尾道
敗者戦 因島2-0瀬戸田
★日級(地区7位、10位)で県総体出場決定

因島高校 文化祭

6月25日(土)
保護者のみなさま、市民のみなさま、どうぞお待ちしております。

編集後記

▼上下町の安原さん、上下町は府中市と合併したが、上下町らしさが失われないう、上下町の活力が損なわれないよう、懸命に努力されている。
▼因島も来年はじめ、尾道に編入合併の予定だ。因島らしさを残せるよう、われわれの子孫のために努力しなければならぬと、切に感じた。

因島高校を支援する会

発行
因島高校を支援する会
会長 竹中啓修
事務局: 因島高校 P T A
☎0845-24-1281
題字 竹中啓修



上下高校のポスター

「広島県立上下高校を発展させる会」会長
「NPO法人上下国際親善協会」理事長

安原定子さんに聞く



聞き手 因島高校元 P T A 会長
因島高校を支援する会幹事
村上 圭一
村上 正則

5月15日、上下町に、安原定子さんをお尋ねしました。安原さんは、14年間上下町教育長という要職にあり上下町の教育、こどもたちの育成に取り組んでこられました。このたび、上下町が、府中市と合併したため、教育長を退任されましたが、「広島県立上下高校を発展させる会」「NPO法人上下国際親善協会」を創立され、ご活躍されています。

因島高校を支援する会の幹事の、村上圭一と村上正則が訪問してお話を伺いました。

「本日は、お忙しい中、お邪魔いたしました。私たちも、因島高校を存続し、市民から慕われる魅力ある高校にするために、「因島高校を支援する会」を作り、取り組んでおります。「広島県立上下高校を発展させる会」について、聞かせてください。

上下高校は、85年前、岡田胖十郎氏が、「これから、教育と産業が、大切である。」と、私学を起こした。近年、生徒の減少が続いており、高校の存続を力強く推進するため、同窓会・高校校区内に呼びかけ、昨年10月、「県立上下高校を発展させる会」を設立しました。同窓会も熱心に学校存続を働きかけることになり、80万を会に拠出して

「発展させる会」としては「どうして上下高校への希望者が少ないのか」校区の中学校を訪問し、聞いて回った。受験校区の中学校の意見(クラブ活動の充実、講師派遣、学力補習等)を伝え、実力のある・夢のある・魅力のある学校にするための協議をした。

今までは毎年、定員割れであったが、努力の甲斐あって、今年は定員を4人オーバーした。

「町の人の関心も高まりましたか?」

先ず本年3月末、強化合

宿勉強会が実施された(経費の一部30万円を提供した)。生徒、保護者に喜ばれ、その効果は大きく、生徒の勉強への関心は高まっている。

また高校のPRポスターなどを作成し、校区には進学希望を促進している。今では上下高校は飛躍しており、町内の人気も上昇している。

管理職の一念、先生の指導力は何よりも学校を変え、生徒が成長する原動力であると思う。今後も支援をつづけたい。

「NPO「国際親善協会」というのは、どんなふうに進められていますか?」

上下国際親善協会は中国と、10年以上交流していま

す。上下町の小学生15人、先生6人を毎年中国へ1週間派遣し、国際交流を深めていた。

派遣される小学生は、日本の代表だという自覚のもと、あいさつをはっきりしたり、自分の意見を自信を持って述べるよう、指導します。中国での交流は日本の伝統文化の発展(日本舞踊、空手、音楽等)スポーツでは、100メートル競争や卓球等の試合をします。

合併後も継続できるよう、合併協議会で、府中市に提案した。合併後の昨年度は、全体から10人(上下から5人)が参加しました。上下には20年前より企業研修生、国際結婚者もあり、相談窓口や勉強会も必要であったので、さらに国際交流・理解を進めようと、上下国際親善協会を、昨年NPO(非営利活動法人)にし、会員をつくり、活動しています。

「先生方の感想はいかですか?」

先生方が、中国に行ったことは大きくプラスになっている。

例えば中国では、国旗国歌をとて大事にする。小学一年生でも、国旗掲揚のときは、姿勢を正して、全員一糸乱れず注視している。児童が、たたまれた国旗を丁寧に大事そうに胸にかかえて、持ってくる、こういう姿を実際に見て、「日本も自国の国旗国歌も大事にしないといけないことを実感した。」と、教員が感動している。

相手の国を尊重し、国際化、国際感覚の育成の一助になっていることは多い。

「上下高校には、留学生が来ておられますね。(安原先生のお宅には、リーさんという高校3年生の留学生がいました。中国で2年間日本語コースで学び、この4月に来日されたそうです。日本語は、大変上手でした。)」

5年前、上海近郊の中国の高校(平湖市職業中等教育学校)から、日本語コースを作りたく、上下国際親善協会に依頼され、上下町が50万、親善協会が102万寄贈した。5年間で、800人の生徒が、日本語コースで、学んでおり、中国でも重点校になっています。

毎年40人くらいが、日本で勉強したいという希望がある。3年前とにかく受け入れようと、3人のホームステイを受けたが、受け入れ家庭が全額負担したところ、1年間約100万入用のため、翌年からは、留学生本人が食費など、30万を負担することになった。(1年間学ぶ。)

留学生の制服代、教科書代、修学旅行代を、上下町が負担。合併後も継続できるように、府中市と確認している。

「上下高校での評判はいかがですか?」

現在3年生が3人在学している。(聴講生の扱い。)

上下高校の生徒は、「中国の子らは、すごい。」と、いい意味での刺激になって



村上正則さん・リーさん(留学生)・安原理事長

いる。

彼女は、演劇部に入学している。日本語の勉強になるからだ、という。スポーツは空手に入部。友人がでけると積極的にある。日本の生徒の中に忘れられた輝きを持っている留学生をみていると、教師の私もパワーをもらおうと語っている。

「中国との交流をいかした国際感覚ゆたかな高校ですね。」

私は、この中国の高校の顧問になっており、一年に一度は、訪問して、日本語の授業もしています。本年4月、副市長、教育長、校長ら9人が、来日され、中日両校長の覚書が調印された。中国の校長は、留学生のホームステイ先を訪問し、激励されました。

「上下町は天領であり、代官所や歴史のあるまちですね。」

上下は、このままでは、どんどん寂れ、忘れられてしまう。

「ここに上下町があったこと」を残さなくてはならないの思いから、歴史資料館を設立。江戸時代から明治にかけて、上下は俳句が隆盛で、芭蕉の流れをくんだ、風葉という、著名な俳人の資料。

上下高校の創立者の長女

岡田美知代(アンクルトムを翻訳、日本人では第一人者)は、田山花袋に入門、有名な「蒲団」のモデルでもあり、女流文学者であることからその生涯を教育委員会が、中心になり、郷土の貴重な文化として研究をつづけ展示。

岡田家を改造して、歴史博物館とし、上下の歴史、昔話の伝承の場を設けている。

「府中市と合併していかがですか?上下の教育、子ども達のために高校も大切に育てていく必要がありますね。」

平成の合併によって、地方で地道に努力してきた日本の底力が失われていく。合併によって、周辺の力は弱まり、みんな力が抜けてきたという感はいまぬない。

商工会も、「高校生がいるから、町もにぎわっている。若い人たちが出て行かないよう、商工会も一緒に頑張って上下高校を残す運動をしよう。」と支援のことばをいただいている。

上下町が、府中市と合併して、教育が、以前よりバツクしないよう提案していますが、教育予算は、約10分の1になった。

合併時は教科書問題、方針、内容、生涯学習に関する課題をもっと慎重に検討すべきであった。

合併協議会での府中市と上下町の合意事項の実現に向けて、声を大にしているところだ。

小さい学校でも良い環境で、着実にこどもを育てていくことも意義がありま

す。人が多いだけが、いいのか?人数だけが、ねうち

か?と言いたい。大きい学校を残すのでなく、魅力ある地元の特長ある高校が存続するよう支援していきたい。

「発展させる会会長として、上下高校の夢がありますか?」

5年前、県教育委員会に陳情した際、上下高校の将来構想を聞かれたので、「学校のコースの見直し、国際化を目指す。各国からの留学生は、日本語の1級取得を目指す。日本人の生徒は、英語の1級か、2級獲得をめざす。語学だけでなく、それぞれの国の文化、様式を学ぶ。日本の文化では、茶道、剣道、空手など、近隣の中学校のみならず、寮の設備も残っており、世界中から、生徒を集めたい。今後、特色ある地域の学校をめざして夢をもって「今だからこそ新たなスタートダッシュをしたい。」

「ありがたいとつごいまして、長い間の国際交流が、上下のこどもたち、上下高校へと生かされていますね。今後ともご活躍いただき、いろいろな指導をお願いいたします。」



村井さん 安原理事長